

# 新市街地造成計画

明治 18 年 (1885) 頃から、留萌の将来のため新市街地  
造成計画(※19)が、留萌村有志(※20)の間で積極的に議論

(※21)され、以前増毛郡書記(※22)をしていた中城長直を中心  
に北海道庁へ手続きを行っていましたが、取り合ってくれませんでした。

しかし、明治 21 年 (1888) に郡長一柳平太郎が北海道  
庁に行った時、よい感触を得たことから、明治 23 年(1890)  
に留萌新市街開削組合(※23)を作り、本格的な運動を始め  
ました。

## ※19 新市街地造成計画

新しい町を作るための計画。

## ※20 有志

一緒に何かをしようとする気持ちのある人。

## ※21 議論

意見を出し合い話し合うこと。

## ※22 郡書記

ぐんやくしょ  
郡役所の公務員。

## ※23 新市街地開削組合

ゆうし  
新市街地を作るため有志が集まった団体。



留萌最初の都市計画図（明治 24 年）



築港前の市街地

そして、明治24年(1891)10月30日付で北海道長官  
の許可を得ることができました。

江戸時代からルルモッペ場所の請負人であった栖原家  
の十一代角兵衛がこの計画に賛成し、留萌村、礼受村、  
三泊村の三村共有資金(※24)として、畠地1万5千坪(※25)  
(約5ヘクタール(※26))、五十嵐綱治が所有地13万坪(約  
43ヘクタール)の寄附を願い出たことから、北海道庁は  
実現性の高い計画として認めたのです。  
これも、港湾都市としての留萌の将来を見据えて考え  
られた計画でした。

新しいまちづくり  
が始まるMO～！

#### ※24 三村共有資金

三つの村で共同で使う金銭。

#### ※25 坪

尺貫法の単位 1坪=約3.3m<sup>2</sup>。

#### ※26 ヘクタール

1ヘクタール=約3,030坪=約10,000m<sup>2</sup>。



また、明治 23 年（1890）には、札幌農学校（※27）教授の  
廣井 勇博士も北海道庁の依頼を受け、留萌の現地調査を行  
い、留萌での港作りの必要性を報告しています。  
新市街地造成計画の許可と共に、綱治を始め留萌村の  
有志たちをどんなに勇気づけたことでしょう。



留萌港修築平面図

※27 札幌農学校  
後の北海道大学。